

第4節 魅力的な農林業を確立する

■現状と課題

本市は、北上川沿いに沖積平野が広がり、肥よくな大地に恵まれた豊かな水田地帯であり、県内でも有数の野菜産地となっています。また、市域の約50%を森林が占めており、そのうち民有林が約80%を占めています。

農業は、ササニシキ・ひとめぼれ等の稲作を基幹として、石巻・河南の「トマト」・「いちご」・「きゅうり」・「枝豆」、桃生の「蕎麦」・「小ねぎ」、河北・北上の「セリ」等の園芸作物と桃生・河北・河南・北上の肉用牛生産等を組み合わせた高度な農業経営が展開されています。

しかしながら、米消費の低迷による米価の下落、貿易自由化による農畜産物の輸入拡大、さらには産地間競争の激化等の影響により、石巻地域における農業産出額は昭和53年をピークに年々減少しており、農家所得についても減少傾向にあります。加えて、農業者の高齢化や後継者不足等により、就労構造の変化や農業生産基盤の弱体化が深刻化しています。

このため、「ほ場整備事業」等の積極的な推進により、優良農地の汎用化を促進し、効率的で収益性の高い農業生産基盤の確立を図ることが求められています。

また、「経営所得安定対策等大綱」に則り、地域の合意に基づく土地利用調整を積極的に進め、集落営農や法人化の推進及び担い手の経営規模拡大等を図るとともに、堆肥等の有機物資源の

有効活用により化学肥料の使用を削減するなど、環境と調和のとれた資源循環型農業の推進を行い、低コストで競争力の高い農産物の生産体制を早期に確立することが必要となっています。

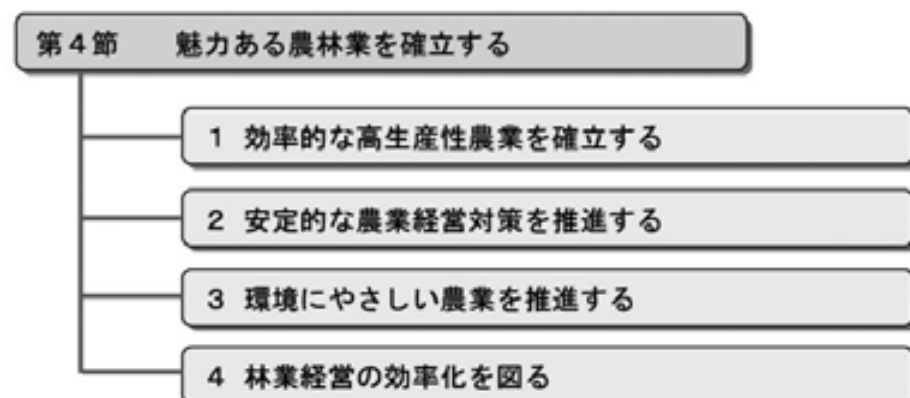
加えて、環境整備事業等を促進し、快適な農村生活を確保するとともに、農地等の地域資源を保全していくことが求められています。

林業は、「スギ」・「松」等の林産物[※]の生産が広く展開されており、「しいたけ」や「ヒラタケ」等の特用林産物[※]の生産も行われていますが、全体的に零細経営が多く、また、外材の輸入増大による木材価格の低迷、生産コストの上昇、松くい虫被害等により収益性は低下しており、林業生産性の弱体化が進んでいるなど、林業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

このため、今後の林業経営としては、林業機械の共同利用や協業化、また二段林施業や長伐期施業を積極的に推進するなど、低コストで収益性の高い経営の確立が必要となっています。

さらに、造林・除伐・間伐や森林病虫害防除等の実施により、森林の荒廃を防止するなど、適正な管理の促進に取り組むとともに、間伐材の活用促進やリサイクル等、資源の有効活用の推進に取り組むことが必要となっています。

■施策の体系



1 効率的な高生産性農業を確立する

■市民とともに目指すまちの姿

効率的な土地利用を背景として、生産性の高い農業が営まれています。

■役割分担

【市の役割】

ほ場整備による生産基盤の強化と産地化の拡大の推進に取り組みます。

【市民に期待する役割】

高品質な農畜産物の生産を推進します。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
農業産出額（億円）	東北農政局統計部「平成17年農業産出額（市町村別）」 担当：農林課	162	163	163

■施策の展開

◆ほ場整備の促進

- 優良農地におけるほ場整備を促進し、農地の流動化や利用集積を図ることにより、農地の高度利用を推進します。

◆効率的な農地利用の促進

- 集落営農等、地域の実状に適した農地利用及び地域担い手農家等への経営規模拡大を進めることにより、競争力の高い農産物の効率的な生産ができる体制の整備に取り組みます。

◆災害に強い農産物生産の確立

- 農産物の被災を防ぐことにより、安定的な生産供給を推進するため、国営かんがい排水事業を促進します。

◆園芸作物安定生産の推進

- ハウス施設整備事業等により、産地としての育成・拡大に努め、高品質な園芸作物の安定生産を推進します。

◆高品質な畜産物生産の推進

- 恵まれた自然環境と豊富な飼料生産基盤を背景として、肉用牛・乳牛等の飼養拡大を図るとともに、優良家畜導入資金の貸付により、畜産経営基盤の強化を推進します。



2 安定的な農業経営対策を推進する

■市民とともに目指すまちの姿

集落営農や法人化が進み、安定的な農業経営が行われています。

■役割分担

【市の役割】

農業経営体の育成・強化により、地域農業の安定化を図ります。

【市民に期待する役割】

集落営農及び担い手農家等を中心とした効率的で安定的な生産体系を確立し、優れた経営感覚を養います。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
個人も含む経営所得安定対策に係る経営体数（体）	平成19年1月末現在「石巻地区農業・農村経営所得安定対策推進会議資料」 担当：農林課	33	54	54

■施策の展開

◆経営所得安定対策などに関する積極的な情報発信

- 集落営農や担い手農家を支援対象とした「経営所得安定対策」について、集落説明会等による啓発活動を展開し、制度の円滑な運用を促進します。

◆集落営農、法人化の推進

- 地域の実状に合わせた組織経営体への移行（新設・再編等）を踏まえ、集落営農や法人化等の堅固な農業経営体の創出を支援します。

◆担い手の確保・育成の推進

- 自立化を目指す農業後継者に対し、認定農業者制度の活用促進を図るとともに、農業経営者研修会や農地の利用集積、低金利制度資金のあっせんを行うなどの支援に取り組みます。

◆新規就農者等に対する支援

- UJIターン[®]者及び団塊の世代等の新規就農者に対し、JA等農業関係団体と協力し、地域農業への参画の支援に取り組みます。

3 環境にやさしい農業を推進する

■市民とともに目指すまちの姿

堆肥等のリサイクル資源が有効に活用され、環境にやさしい農業が営まれています。

■役割分担

【市の役割】

農村環境の保全と資源循環型農業を促進し、エコファーマー[®]の育成を支援します。

【市民に期待する役割】

農村環境の保全と資源循環型農業の取組みに積極的に参加し、環境と調和のとれた農業生産に取り組みます。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
エコファーマー [®] 認定農業者数（人）	平成18年12月末現在「宮城県産業経済部農業振興課資料」 担当：農林課	144	180	210

■施策の展開

◆資源循環型農業の推進

- 耕作農家と畜産農家との連携による農畜産物の生産と、減化学肥料・減農薬栽培等による農産物の生産を推進し、人と環境にやさしい資源循環型農業の永続的な展開を図ります。

◆エコファーマー[®]の育成支援

- エコファーマー[®]の育成支援などにより、環境と調和した持続性の高い農業生産方式を推進します。

◆農村環境の保全

- 農村集落排水施設や集落間道路等の整備の促進により、農業の近代化と快適な農村生活を確保します。
- 農業に対する理解を深めるため、都市部と農村部のふれあいと交流を促進します。
- 農地・水・環境保全向上対策事業等について、市内全域を対象とした農村環境保全の取組みを支援します。

4 林業経営の効率化を図る

■市民とともに目指すまちの姿

効率的で収益性の高い林業経営が行われ、資源の有効利用と豊かな森林環境が整備されています。

■役割分担

【市の役割】

林業者の経営の安定化を図り、森林資源の有効活用の促進と適正な森林施業に取り組みます。

【市民に期待する役割】

低コストで収益性の高い林産物[※]を生産し、安定した林業経営を確立します。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
民有林における造林・除間伐の面積（ha/年）	平成16年石巻市森林整備事業計画（平成19年1月計画変更） 担当：農林課	82	85	90

■施策の展開

◆効率的な林業経営に関する積極的な情報発信

- 林業生産性の向上・林業従事者の所得の増大を目指し、経営規模拡大や近代的林業機械の共同利用により、低コストで魅力ある林業の実現に向け、積極的な助言や情報の提供に取り組みます。
- 間伐や長伐期施業・二段林施業を促進し、効率的な林業経営の実現に向け、情報提供に取り組みます。

◆資源の有効活用の推進

- 世界的に環境保全の意識が高まる中、外国産材の供給が不安定になってきている実態から、計画的な森林施業による間伐材の活用を促進します。
- 林業経営における資源の有効利用の見地から、製品として活用できない枝葉・根の部分のリサイクル（活性炭としての販売）の促進のため、福祉事業との連携等により販路の拡大に取り組みます。

◆森林の適正な管理の促進

- 森林資源の維持・整備を図るため、造林、除伐、間伐などの実施を促進します。
- 松くい虫防除重点地区を定め、継続的な防除対策を推進するとともに、樹種転換を促進し、森林の適正管理に努めます。



第5節 消費者に信頼される“石巻ブランド”を形成する

■現状と課題

現在、経済の活性化を図るため、日本の各地域でその土地の特性を活かしたさまざまな「地域ブランド」づくりが進められています。

本市は、金華山沖の「かつお」、「さば」といった豊富な種類の鮮魚類をはじめとして、三陸沿岸海域の「あわび」、「うに」、「かき」、「ほや」、「ほたて」、「のり」、「わかめ」、北上川の「しじみ」、石巻湾の「種がき」などの海産物、また、桃生の「蕎麦」・「小ねぎ」、河北・北上の「セリ」といった農産物、そして桃生・河北・河南・北上の畜産物など、多種多様な食材と「笹かま」や「たらこ」などの水産加工品、前浜ものの食材を活かした寿司など、全国に誇れる多くの食の特産品を有する地域となっています。

このことから、豊富な特産品を活用した石巻ブランドが求められており、金華山沖で獲れた「かつお」や豊かな森の恵みを受けた三陸の「かき」等に関してブランド化[※]事業を進めています。ブランド化[※]に当たっては、ブランド品としての基準や流通のルールづくり、「かき」については、海水の浄化殺菌施設の整備の推進に

取り組むとともに、かき祭りや都内アンテナショップでの試食イベントを開催するなど、消費拡大への取組みを行う必要があります。

また、農畜産物についても、石巻産という地域ブランドは、浸透しつつありますが、今後積極的なブランド化[※]が求められており、「共販制度」と「産直制度」という二つの販売形態が共存できる取組みを検討する必要があります。

石巻ブランドが「地域の顔」としてオンリーワンの役割を将来担っていくためには、地域イメージを表出することによって特産品に新たな付加価値を加えるものであり、地域の価値、アイデンティティを創出する必要があります。

また、地域の新鮮で豊富な資源を活用し、農産・海産物を高鮮度、高品質の状態での流通させ、高度な技術による加工食品の提供と健全な食育の発信を行うとともに、付加価値を高め、トレーサビリティシステム[※]やHACCP手法[※]を導入した生産管理体制を確立することにより、消費者に石巻産ならではの安全で、安心できるものを地域の誇りとして提供する必要があります。

■施策の体系

第5節 消費者に信頼される“石巻ブランド”を形成する

1 製品の品質向上や総合的な流通体制の整備を図る

2 食の安全管理を徹底する

1 製品の品質向上や総合的な流通体制の整備を図る

■市民とともに目指すまちの姿

豊富な地域資源を活用し、生産技術や生産管理体制の高度化が進み、石巻ブランドとしての付加価値が高まっています。

■役割分担

【市の役割】

石巻ブランドの形成に向けて、規格づくりや衛生管理を促進し、地産地消の拡大に取り組めます。

【市民に期待する役割】

地場産品に対する理解を深め、積極的に活用します。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
見本市等来場者の好感度割合（％）	平成17年度シーフード見本市来場者アンケート実績 担当：水産課	53.7	70.0	90.0

■施策の展開

◆地域資源を活用したブランドの確立

- 豊富な地域資源を有していることから、地域ブランドの構築や管理、食品の加工、販売までを含めた総合的な地域ブランド戦略の確立に向け、意識醸成を図るためのセミナーや相談会の実施に取り組めます。
- 地域内流通の促進と、豊富な食材や特産品を組み合わせた「石巻ブランド」の開発と戦略的な事業展開を図ります。

◆品質衛生管理の促進

- 多種多様な農林水産物の産地「石巻」の優位性を活かし、高品質・高鮮度の保持や履歴の明確性、出荷規格の改善など、一層の高付加価値化に取り組めます。

◆豊富で魅力ある食材情報の発信

- 食材の豊富さと魅力を活かし、生産現場の見学や見本市をシーズンごとに開催するなど、食材のPRを図ることで販路の拡大と地域イメージの確立に取り組めます。

◆地産地消の推進

- 飲食店、宿泊施設などでの地場産品の取扱いを促進します。
- 地元食材を使った料理教室を開催するとともに、朝市などのイベント販売を活用し、地元への食材提供の拡大に取り組めます。
- スーパーマーケット等の量販店に対する地場産品のPR活動を促進し、取扱量の増加並びに地産地消の推進に努めます。
- 各種イベントや直売所等において、消費者とのふれあいあいの下に地産地消の拡大に努めます。
- 「地産地消推進協議会」により、生産者と消費者及び事業者が連携を深め、市内で生産される農産物及び水産物等の地域内流通を促進するとともに、伝統的な食文化の伝承と健康的な食生活などの食育事業を活用し、地域の活性化を目指します。

2 食の安全管理を徹底する

■市民とともに目指すまちの姿

トレーサビリティシステム[※]やHACCP手法[※]の活用などにより、衛生管理の強化が図られ、安全・安心な食材が提供されています。

■役割分担

【市の役割】

トレーサビリティシステム[※]やHACCP手法[※]の活用を促進し、食品の衛生管理の向上に努めます。

【市民に期待する役割】

「食の安全・安心」を認識し、衛生管理の向上に努めます。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
みやぎ食品自主管理登録認証制度により認証された企業件数（件）	平成18年12月20日現在 担当：水産課・農林課	4	8	12

■施策の展開

◆食の安全安心対策の推進

- トレーサビリティシステム[※]の導入をはじめ、産地・製品情報の積極的な提供など、生産者の取組みを支援します。
- 「みやぎ食の安全安心取組宣言制度」や「みやぎ食品衛生自主管理登録・認証制度」の活用を促進するために、制度内容の広報の強化に取り組みます。

◆HACCP手法[※]の活用推進

- HACCP手法[※]の活用により、品質・衛生管理体制を強化し、安全・安心な食材提供を促進します。

第6節 人々が集い、住み、楽しく過ごせる中心市街地を再生する

■現状と課題

本市の中心市街地は、港湾や北上川を活かした水運業を基本に、江戸時代から商業、流通の拠点都市として繁栄してきており、本市の商圏は28万人を擁し、吸引人口は仙台に次ぐ県内第2位となっています。

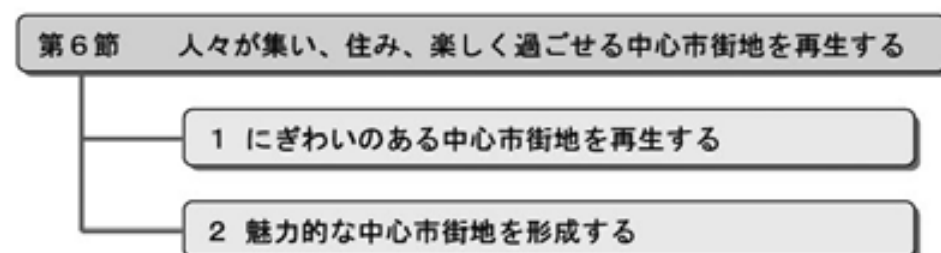
しかし、近年、長引く景気の低迷等によって消費者の購買意欲が減少しており、さらには、消費者のライフスタイル（生活の仕方）の変化、ニーズの多様化、モータリゼーションの進展に伴う郊外型大型店の進出等、さまざまな問題を抱え、本市小売業の年間商品販売額は年々減少傾向にあります。

このようなことを背景に、中心市街地はシャッターを下ろしたままの店舗や空き地を利用した駐車場が多くなり、休日でも買い物客が少ないなど、商業活力の低下が目立っており、17万都市の顔としての中心市街地に、にぎわいを取り戻すことが急務となっています。

中心市街地は、単に買い物をする空間として存在するのではなく、そのまちに住む人々が生活し、交流し、楽しんできたという長い歴史の中で創り出したまちの文化を継承する場として維持しなければならない空間であり、中心市街地の活性化のために、これまでも石巻市中心商業地再生基本計画や石巻市中心市街地活性化基本計画を策定し、にぎわいの再生に努めてきましたが、中心市街地の空洞化に歯止めがかかっていない状況があります。

人口減少や高齢化社会という時代を迎え、歩ける範囲で生活できる空間の創造が求められることから、中心市街地に商業機能のみならず、まちとして必要な「住む」・「働く」・「学ぶ」・「楽しむ」等の機能の集積を図り、生活空間としての再構築や、イベントの開催などによる中心市街地の活性化が必要となっています。

■施策の体系



1 にぎわいのある中心市街地を再生する

■市民とともに目指すまちの姿

中心市街地が、人々が集い、住み、楽しく過ごせる「にぎわいの場」として再生されています。

■役割分担

【市の役割】

中心市街地のにぎわいを創出し、事業者等の自主的な事業展開への取組みを支援します。

【市民に期待する役割】

まちの活性化イベント等を積極的に実施し、にぎわいのある商店街づくりに取り組みます。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
中心市街地での休日歩行者数（人/日）	平成15年度石巻市中心市街地通行量調査報告書 担当：商工観光課	22,082	25,000	30,000

■施策の展開

◆少子高齢化への対応支援

- 少子高齢化の傾向が顕著であることから、空き店舗を活用し、子育て支援施設や情報交換のできる場や機会などをつくり、地域のニーズに対応した事業を展開しようとする事業者や商店街の支援に取り組みます。
- 買い物代行サービスや宅配サービスといったソフト面での高齢化への対応や、来街者にやさしい商店街づくりとして商店街全体でのバリアフリー化等の取組みに対する支援を図ります。
- 空き店舗を活用した「お休み処」の整備や歩道への「お休みベンチ」の設置などによって、高齢者でも安心して、ゆっくりと買い物を楽しめる環境づくりに努め、にぎわいの創出に努めます。

◆活性化イベント等の充実

- 株式会社街づくりまんぼう等と連携しながら、石ノ森萬画館及びマンガロードを活用した活性化イベント等の開催や空き店舗を活用したまちなか実験室、休憩所設置など地元商店街等の新たな事業展開を支援し、にぎわいの創出に取り組みます。
- 先進的な取組みに関するセミナーなどを開催し、中心市街地に対する市民意識の向上や街づくりリーダーの育成などに取り組みます。



2 魅力的な中心市街地を形成する

■市民とともに目指すまちの姿

多様な機能が集積し、活気と魅力あふれる、歩いて楽しい中心市街地となっています。

■役割分担

【市の役割】

商業を含めた多様な機能が集積した中心市街地の形成の促進に取り組みます。

【市民に期待する役割】

中心市街地ならではの個性ある商店を集積し、魅力ある商店街づくりに取り組みます。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
中心部商店街での購買割合（%）	平成17年消費購買動向調査報告書 担当：商工観光課	24.2	27.0	32.0

■施策の展開

◆多様な機能集積の推進

- 中心市街地を歩いて暮らせる生活空間として再構築するため、市民と協働し、歴史、文化、自然、風土を活かした新たな視点で多様な都市機能などの集積に取り組みます。
- 空き店舗などの有効活用を支援し、商業機能のみならず、居住・介護・子育て支援機能などが集積しやすい環境づくりに取り組みます。
- 中心市街地での新たな事業展開に取り組む事業者や商店街等の支援に取り組みます。



◆テーマ性を持たせた商業集積の推進

- 専門店や豊富な地域食材（地場産品）を活用した飲食店等の集積を図り、魅力ある商店街づくりの支援に取り組みます。

◆個性と魅力ある商店街づくりの支援

- より専門性の高い品揃えやきめ細やかなサービスなどを提供する、個性と魅力ある商店や商店街づくりを促進し、歩いて楽しく買い物ができる環境づくりに努めます。



第7節 年間を通して観光客が訪れることによりにぎわいを創出する

■現状と課題

本市の観光の魅力は、海の幸、山の幸ありといった全国有数の水産物の産地であり、また、農産物も豊富にあります。この水産資源・農産資源と観光を結びつけ、「観光都市 新生・石巻市」の実現に向けての取組みが求められています。

本市の観光施設は、サン・ファン館や石ノ森萬画館・おしかホエールランド・雄勝硯伝統産業会館などのオリジナリティのある施設や、道の駅「上品の郷」があり、また、観光客が毎年多く訪れる環境省の「かおり風景100選[※]」に選ばれた金華山や「日本の音風景100選[※]」に選ばれた北上川のヨシ原、「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に選ばれた旭山など、自然を利用した体験メニューや石巻の特産品である水産物等の食などを中心とした誘客の促進を図っています。

しかしながら、本市は、豊かな自然と豊富な地場産品に恵まれている反面、観光関係者間のコミュニケーション不足や効果的なPR等が不足しており、夏場の通過型の観光が多く、全体としての観光客の入込数も減少傾向にあります。

また、「観光の中心が定まっていない」・「豊富な食材が活かされていない」・「誘客のターゲットが絞られていない」などの諸問題を抱えており、点在する各施設の効率的な連携が図られていないため、景観に優れた地域を活かしきれ

ていない状況となっています。加えて、お祭りやイベントは、類似したものが多く、今後は、イベント内容の再検討が求められています。

このことから、豊富な米・野菜・魚の地場産品を活用した「日本型食事」をキーワードに「食のまち・いしのまき」という戦略的な観光振興を図るとともに、社団法人石巻観光協会などと協力して観光推進体制を整備し、点在している施設をより効果的に活用できるように、観光情報の共有化や施設間の相互連携、受け入れ形態の充実を図る必要があります。

また、農業、漁業、商工業、運輸、ボランティア団体等とも幅広く連携を図りながら受け入れ態勢の整備を図る必要があります。

さらには、観光ルートの充実、観光客を迎える「おもてなしの心」の醸成を図るための研修会の開催、姉妹都市等との連携による各種物産展の開催、積極的な観光情報の発信などを行うとともに、豊かな自然などを活用して癒しのひとときを過ごしていただけるような体験型・滞在型の観光へ移行を図る必要があります。

また、外国人客の誘致に向けての受け入れ体制についても整備を行う必要があります。

■施策の体系

第7節 年間を通して観光客が訪れることによりにぎわいを創出する

1 魅力ある観光地づくりと効果的なPRの推進を図る

1 魅力ある観光地づくりと効果的なPRの推進を図る

■市民とともに目指すまちの姿

「食のまち・いしのまき」として、全国的な知名度が高まっており、「一度は行ってみたい」そう思われる地域になっています。

■役割分担

【市の役割】

食を中心とした観光振興に努めるとともに、観光資源の発掘や魅力の向上に取り組みます。

【市民に期待する役割】

観光で訪れた方に「おもてなしの心」を持って接するとともに、観光資源のPRを積極的に行います。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
観光客の入込数(万人/年)	平成17年宮城県観光統計概要 担当：商工観光課	265	290	320

■施策の展開

◆食を活かした観光の推進

- 豊富な地域資源である米・野菜・魚という地場産品を活用した「日本型食事」をキーワードに「食のまち・いしのまき」をアピールする戦略を推進します。
- 生産者や飲食店、市民等と連携しながら、より付加価値の高い新商品開発に取り組みます。

◆積極的な観光情報の発信

- 観光関係団体とのネットワークを強化し、情報を共有化することで、効率的・効果的な観光情報の発信に取り組みます。
- 「食」をPR戦略の柱として、観光客のニーズに即したパンフレットの作成に取り組みます。
- ホームページを活用し、リアルタイムできめ細かな観光情報の発信に取り組みます。
- フィルムコミッションと連携し、石巻を舞台とした映画やテレビ番組を誘致するとともに、石巻の自然や食材、観光資源の魅力を活かした情報発信に取り組みます。

◆まつり・イベントの充実

- 「石巻川開き祭り」、「サン・ファン祭り」、「はねこ踊りフェスティバル」、「おしか鯨まつり」など、各地域の祭りを保存充実し、観光資源として魅力の向上に取り組みます。

◆「おもてなしの心」の醸成の推進

- 観光ボランティアガイドの育成・活用を図るとともに、先進地の事例などを参考としながら、観光ボランティアの資質の向上に取り組みます。
- 外国人観光客の受け入れ体制を強化するために、ALT（外国語指導助手）を活用し、改善すべき点やコース設定などを調査するモニターツアーを実施するとともに、外国語通訳ボランティアの育成、外国語表記の観光パンフレットの作成に取り組みます。
- 市民を対象とした観光に関する講演会やフォーラムを開催し、「おもてなしの心」の醸成に取り組みます。

◆観光施設整備の推進

- 観光施設の魅力を高めるために、計画的な改修や再整備に取り組みます。

◆案内板の充実

- 外国語表記も含め観光客に分かりやすい案内板の整備拡充に努めます。

◆地域連携の強化と観光ルートの充実

- さまざまな資源を持つ地域が連携することで「集客・観光・交流」型の広域観光による相乗効果を推進するとともに、観光客のニーズに応じた魅力あるモデルコースの設定に取り組みます。

◆ニューツーリズムの推進

- 観光客と農山漁村住民とをつなぐネットワークの形成や、石巻の魅力と特長を活かした様々な体験・交流型観光メニューづくりなどに取り組みます。

◆産業観光の推進

- 企業とのネットワーク形成を図り、水産加工業や紙・パルプ、木材関連製造業等の特色ある産業の生産現場を、新たな観光資源として活用が図れるよう取り組みます。

